



## 1人1台端末の活用による、日常生活の質を向上させる実践事例

学校名	岡山県立東備支援学校	指導者名	高取 蘭
実践場面 (教科名)	教室と特別教室の遠隔学習 (生活単元学習)	単元・題材名	「おうちを作ろう」ほか
学習目標・ ねらい	安心できる環境で、友達の様子を見聞きしながら活動したり、自分なりに集団に関わったりすることができる。		
対象児童生徒 の 実態	知的障害部門 小学部 3年		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「何を」「どのくらい」すればよいか明確であれば、取り組めることが多い。作業が終われば砂時計を見ながら待つことができる。</li> <li>・普段と異なる場所や集団で活動する事への不安が大きい。</li> <li>・不安が強いときには、教室から出ようとしたり、大きな声を出したりすることがある。</li> <li>・担任を中心として、安心して一緒に活動できる教員を広げている段階である。</li> <li>・本単元では、他学年と合同の活動であったり、教室が変わったりしたこともあり、学習の途中で教室から出て行こうとする姿が多く見られた。</li> </ul>		
活用の概要			
<p>(1) 会議室と3年教室のiPadをMeetで繋ぐ。</p> <p>(2) 会議室では全体の学習を行い、本児は自分の教室で担任と一緒に学習する。</p> <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カラーポリを使って家を作り、ままごと遊び等を展開する。</li> <li>・本児に対して、タブレット越しに「ピザを作ってください」と依頼する。</li> <li>・本児からピザを受け取って、遊びの中に取り入れる。</li> </ul> <p>&lt;写真1：会議室でおうち作り&gt;&lt;写真2：Google Meetを使用して全体会場から中継&gt;</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p>【本児】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中継を見て様子を感じながら、教室で様々な形に切った色画用紙を貼ってピザを作る。</li> <li>・全体会場からの注文を受けて、担任と一緒に「配達」に行く。</li> <li>・全体会場の児童にピザを渡して、教室に戻る。</li> </ul> <p style="text-align: right;">&lt;写真3：本児に提示した目標&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p style="text-align: center;">             ぴざ 🍕 を つくって              はいたつ しょう         </p> </div>			
成果や活用の ポイント ・ 課題、改善点 等	<p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本児の状況に応じて、安心できる場所から全体の様子を見たり、よいタイミングで集団と関わりをもつことができた。集団の中にいることが難しいときにも、集団と関わる機会をもつことができた。</li> <li>・ALTとの活動の際にも、別室で全体会場と同じ流れで活動することができた。</li> <li>・近隣の小学校との交流学习の際にも、別室と中継して活動することができた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・iPadの設置場所によっては、他児の気が散ったり、活動の様子がうまく映らなかつたりすることがある。</li> <li>・現状では中継による双方向のやりとりは成立しづらい。</li> <li>・Wi-Fi環境が不安定で、教室によっては繋がりにくい場合がある。ポケットWi-Fiの活用も検討し、状況を適宜報告し、対策・改善に努める。</li> <li>・教員が操作に不慣れなために、スムーズに接続できないことがあり、児童の意欲を保ちにくかつたり、活動の進行が滞ったりすることがある。授業内外でも積極的に活用して慣れていくことが必要である。</li> </ul>		